

訳 者 序

本資料は、OECD（経済協力開発機構）が刊行している「中高年者の雇用」シリーズの第6集“*The Discovery Method-An International Experiment in Retraining, R.M.Melbin, 1969*”の全訳である。著者Melbin氏は、OECDの専門家として、中高年者の訓練のため「発見学習法」（Discovery Method）と呼ばれる新しい訓練方法について、オーストリア・イギリス・スウェーデン及びアメリカの4カ国において実地試行を行い、その結果を報告書にとりまとめた。ここにいう発見学習法とは、一言でいえば、在来方式の訓練が指導員を中心とし、その口頭説明、実演等を主体とするものであったのに対し、訓練生自身が「発見」することによって知識や技術を身につけるようにする方式である。本資料は、4カ国の実験から得られた結果の総括と、国ごとの実施状況報告の2部に分れているが、結論として著者は、「発見学習法」は在来の訓練方式に比べて訓練効果が大きく、特に中高年労働者の訓練の場合により効果をおさめたと述べている。

わが国と事情の異なる国々で行われたこの実験的方法が、そのまま適用しうるかどうかは問題であろう、しかし、中高年令者のための訓練の必要性は今後ますます高まるであろうし、そこにおいては、適切な訓練計画の作成と実施のため、若い学卒者の養成訓練とは異なる工夫と努力が要求されることは明白である。この意味で、この報告書は一つの示唆を与えるものであり、資料としてはやや古いが適当な参考資料も乏しいので敢て訳出することとした次第である。なお、この報告書は、かなり圧縮された形で書かれていて、発見学習法適用の細目については必ずしも明確でない点もあり、また、訳語等について不適切な箇所もあるかも知れない（全訳であるが、印刷の都合上、写真説明の部分及び引用文献に関する注の一部は省いた）が、全体を流れる考え方と実験のポイントを読み取って頂ければ幸である。

昭和52年3月20日

泉 輝 孝
石 川 俊 雄
宗 像 元 介

ま え が き

本書は、「中高年令労働者の訓練」と題する本の中で彫琢された学習原理に基づく中高年令労働者訓練のための「発見学習法」の4つの先導的適用について述べたものである。これらの実験が非常な成功を収め、中高年令労働者のための特別な訓練方法の開発の可能性と有用性を示したことにわれわれは意を強くしている。その実験は、もしも中高年令労働者が彼らの適性にふさわしい特別な方法で訓練を受けられれば、彼らは産業の必要とする技能をうまく習得することができること、しかも在来的な訓練方法に比べてより速く習得するものが多い、という結論の妥当性を再確認している。本報告書は、発見学習法の原理が、恵まれない人々の諸グループ全体に対しても同じように適用し得ることを示唆している。

本報告書はまた、「中高年令労働者の雇用政策」の中にもりこまれている「訓練方法」に関する労働力社会問題委員会の結論が正しかったことを証明している。その結論は次のように述べている。

「公企業及び民間企業で用いる訓練方法は、中高年令者の学習のニーズに特に適合させるべきである。現存雇用機会のうち適職につくための職業的訓練を受ける前に、個人は準備的一般教育を受けることができる。そのような教育の実施には、できるだけ注意をそらせないような環境の中で身体の安全を保障するという条件が必要である。特別な教材を用いて、一連の問題解決の課業の中で、コントロールされた経験の積重ね、参加、識別及び発見を通じて学習することができるようにすべきである。指導は短かく、かつ容易に理解し得るものでなければならない。プログラムでは学習したことを定着させる時間的余裕が認められるべきである。直ちに就職口がない場合には、新しい試みは多能工訓練に価値があることを示している。」

中高年令労働者のため「発見学習法」が利用され、これによって前述のようなことが明らかとなり、このため米国政府は、この方法を適用してゆくた

めの広範なプログラムに着手している。この方法を定型的に利用できるようにするため、特定の技能に関してそのための手引が現に作成されつつある。ほかの諸国でも指導員がこの方法に関心をもち、この最初の実地試行をあとづけ、彼ら自身、この分野での知識を拡大してゆくことが望まれる。実験を通じて学んだ教訓についてさらに洞察を深め、これをさらに練り上げてゆくためには、国際的基礎に立ってより多くの経験を集め、交換する必要がある。

訓練生に対して一連の課業と問題を漸進的に提示してゆくことによって組み立てられている訓練の発見学習法は、訓練生が難しさと複雑さを増してゆく技能や知識をマスターすることを可能にする。この方法の成否は、特定の職務に必要とされる要件をいかに注意深く規定するか、そしてそれらを整序された一連の課業と問題にいかにか翻訳してゆくかにかかっている。したがってこのプログラムでは、訓練デザイナーが中心人物である。この方法が広く利用されるかどうかは、第1に各国でかかる人材を確保し得るかどうかによってきまる。特定の訓練をシリーズ物で準備してゆくために、デザイナーは、特定の職務に要求される技能と知識を徹底的に熟知していなければならない。情報が不適確な場合には、この実地試行において必然的にそうしたように、学習上の難点を見定め、訓練手順の相対的效果を確認するための実験的なプロジェクトをやってみることもできる。

加盟国は、発見学習法の洗練と適用に取組み、中高年令者の訓練の分野で希望の光を与えられたメレディス ベルビン 博士に負う所が大きい。

米国における実地試行研究の実情が「訓練の発見学習法」と題するフィルムにとられており、米国労働者で人手することができる。

は じ め に

専門家の特権は、同意しないことである、といわれる。しかしながらこの報告書で述べたプロジェクト実施に関する経験について私がこれまでに出会った専門家が同じ結論に向かっていかによく協力したか、それはもう驚くばかりである。多分それはこの作業のもつ社会的重要さに対する責任感が、われわれ一同を動かしたためであったろう。

多数の人たちの御協力があったが、とりわけオーストリアのA.フィニス博士，P.ディマイ博士，スウェーデンのB.グスタフソン博士，C.ウォーカー氏，アメリカのH.シェパード博士，J.サイラー氏，A.マラック氏，D.エルトマン氏，イギリスのJ.カークビー・トマス氏に対して深甚の謝意を表したい。プロジェクトの成否は別として、それを進めるために非常な努力を惜しまれなかった方々に対しても一言お礼の言葉を述べたい。この面ではカナダのN.ワイト嬢，ドイツのP.レディヒ氏に感謝する次第である。イギリスでは違った分野で働いてくれた2人の方に感謝の言葉を捧げたい。私の妻であり、教育省の産業訓練研究所長であるユーニス・ベルピン博士及びイーディス・ビッグス夫人である。この2人は、発見学習法の開発に非常な働きをして下さった。

私は、私の結論がすべて受け入れられるかどうかわからない。しかし経験から生まれた1つのことは論争ぬきに進められることを期待している。それは国際協力の活動である。

R. M. ベルピン

イギリス・ケンブリッジ

参 考 文 献

- E BELBIN: Methods of Training Older Workers, Ergonomics, 1 208-221, 1958.
- E. BELBIN: Problems of Learning for the Over-40s, Gerontol. Clin., 7, 61-68, 1965
- R. M. BELBIN: Employment of Older Workers: Training Methods, OECD, Paris, 1965.
- M. A. CLEUGH: Educating Older People, Tavistock, London, 1962.
- J. T. GUTHRIE: Expository Instruction versus a Discovery Method, Journ. Educ. Psychology, 58, 45-49, 1967.
- G. M. HASLERUD and S. MEYERS: The Transfer Value of Given and Individually Derived Principles, Journ. Educ. Psychology, 48, 293-298, 1958.
- V. MARTIN: Accelerated Vocational Training for Adults, OECD, Paris, 1965.
- M. V. MILLER: On Teaching Adults: An Anthology, Center for the Study of Liberal Education for Adults, Chicago, 1960
- Ministere des Affaires Sociales (France), Direction Generale du Travail et de l'Emploi, Service de l'Emploi: Age et Emploi, Elements de Bibliographie, Paris, March 1967.
- National Council on the Aging (USA): Manpower Training and the Older Worker, National Conference Proceedings. Washington, 1966
- OECD: Job Redesign and Occupational Training of Older Workers, International Management Seminar in London, Paris, 1965.
- OECD: Employment of Older Workers, Regional Seminal in Heidelberg, Paris, 1965.
- S. STERN and T. S. GOULD: Children Discover Reading, Harrap, London, 1966.
- L. SZEKELY: Productive Processes in Learning and Thinking Acta Psychologica, 7, 388-407, 1950.
- A. T. WELFORD: Ageing and Human Skill, Oxford University Press, 1958.